

令和2年度 地域ケア個別会議開催結果

資料No.3

開催回数	開催年月日	地区	会場	出席者	個別ケースの概要(テーマ)	地域課題
第1回	R2.7.1	小佐野	小佐野コミュニティ会館大ホール	民生委員、県立釜石病院退院支援看護師・医療社会事業士、はまゆり介護CM、はまゆり訪問介護管理者、生活支援Co、応援センター所長、包括スタッフほか 計15人	・ヘルパー等の支援を受け「最期まで自宅で暮らしたい」と希望しているが、生活動作が低下したことで一人での生活に不安が強くなり、寂しさからヘルパーの訪問を引き延ばしたり、甥の妻への訴えが多い。 ・一人暮らしの生活の不安をどのように緩和していけるか。また地域でできることはないか。	1.地域住民による訪問型傾聴サービスや生活支援サービスの構築 2.支援者が周囲と連携できる体制づくりと対応に悩んだ時の相談先を明確にする 3.地域の人達は介護サービスが入っているからと離れるのではなく、変わらない関わりが必要 4.不安の強い方や訴えの多い方が増えている中で、対応がしっかりできる機関が必要(見守り傾聴センターが全地区にあればよい)
第2回	R2.7.30	釜石	保健福祉センター9階講義室	町内会会長代行、県立釜石病院退院支援看護師、東釜石地区在介CM、あゆみ居宅CM、SOMPO訪問介護管理者、生活支援Co、応援センター所長・保健師、包括ケア推進本部職員、包括スタッフほか 計14人	・物忘れ症状がありながら生活していたが、新型コロナウイルス感染症流行による自粛期間にテレビを見て過ごす時間が長く、コロナを心配しているうちに物忘れや物探しがの回数が増える等日常生活に支障が出始めた。 ・今後不安なく地域で生活するためにはどうしたらいいか。	1.外に出るきっかけ作り(最初の誘いは保健師やケアマネが行い、徐々に地域住民へ結びつける) 2.新型コロナウイルス感染症予防の正しい知識を持つ 3.その人の持っている力を活かして、人と接する機会を増やすことができる仕組みづくり 4.市営住宅や復興住宅と町内会を生活支援コーディネーターが繋げて、地域で協力できる体制を構築する
第3回	R2.8.21	鵜住居	鵜住居公民館 和室	民生委員、県立釜石病院退院支援看護師・医療社会事業士、かまいしケア一居宅管理者、鵜住居地区在介CM、やまさきCM、五葉寮DS所長、生活支援Co、応援センター所長・保健師、包括スタッフほか 計17人	・同居する息子が急死し、地域との関わりもなく、他の家族も傍にいないためケアマネが緊急事態の対応に苦慮した事例。 ・認知症の方と地域の関わり方について。 ・ケアマネとして利用者のご家族の情報ほどこまめに把握が必要か。	1.ケアマネジャーと民生委員の連携 2.本人や家族が民生委員への情報提供を拒否している場合の対応(民生委員と生活応援センター・包括との情報交換や共有の必要性) 3.地域における認知症についての普及啓発と認知症の方が住みやすい町づくり
第4回	R2.9.17	中妻	中妻公民館 集会室	民生委員、はまゆり会代表、県立釜石病院退院支援看護師・医療社会事業士、ひまわり基金弁護士、ニチイ在介CM、ニチイ訪問介護サービス提供責任者・DS管理者、生活支援Co、応援センター職員、包括スタッフほか 計18人	・認知症で腰椎椎間板ヘルニアを発症し、現在入院中。キーパーソンの兄達は施設入所を希望しているが、本人は在宅を希望。 ・認知症があるも、痛みと上手く付き合えないがどのように生活すればよいか、地域全体で認知症の人を支える体制づくりについて。	1.認知症についての理解と普及啓発 2.見守りや服薬の声掛け・確認等介護保険サービスの代替・補完できるサービスが必要 3.負担感のない地域みんなでの見守り支援体制の整備 4.認知症サポーター養成講座受講修了者によるチーム作りと支援体制の構築
第5回	R2.10.12	平田	平田地区生活応援センター 大会議室	民生委員、町内会長、県立釜石病院退院支援看護師・医療社会事業士、平田駐在所所長、薬剤師、あいぜんの里在介CM、かまいしケア一居宅管理者、SOMPOデイ管理者、生活支援Co、応援センター職員、包括スタッフほか 計18人	・認知症の妻は施設入居中。 ・妻が入所後から物事の整理がつかず、些細なことで混乱しパニックになっている。 ・服薬管理や金銭管理も十分にできず、日々の生活に不安が大きい。 ・できることは自分の方で行いながら、落ち着いた独居生活を継続していくための支援方法や不安を抱えている方への地域の関わり方について。	1.多職種(包括・ケアマネ・各事業所・薬剤師等)の情報共有や連携 2.新型コロナウイルス感染症拡大により様々なことが制限されている中で人との関わり方の再構築が必要 3.地域の人達でできることの検討が必要
第6回	R2.11.17	栗橋	橋野ふれあいセンター 和室	民生委員、主任児童委員、町内会長、県立釜石病院退院支援看護師・医療社会事業士、鵜住居地区在介CM、橋野駐在所所長、かまいしケア一居宅管理者、生活支援Co、応援センター保健師、包括スタッフほか 計15人	・東日本大震災で被災。翌年妻が亡くなりその後自宅新築し転居。 ・徐々に体の不自由さが増し、自宅内の歩行にも支障をきたすようになる。 ・新型コロナの影響により家族も来訪できず援助が期待できない。 ・一人暮らしの高齢者を地域でどのように支えていったらいいか。	1.年を取る準備「老活」をする(年を取った時のことや人生をどう終わらせるか等、早いうちから前から考え準備しておく) 2.若い時からの地域との関係づくり 3.100歳体操の普及(100歳体操が体力増進だけでなく人と人を繋ぐツールになっている) 4.どこに住んでいても利用したいサービスを利用できる体制整備
第7回	R2.12.1	甲子	松倉地区コミュニティ消防センター 2F	民生委員、県立釜石病院退院支援看護師・医療社会事業士、仙人の里CM、はまゆりCM、さくらヘルパー・DS生活相談員、生活支援Co、応援センター所長、包括スタッフほか 計15人	・夫が死去後、地域との交流を好まず、介護サービスを利用している。出来る力も沢山あるが、もの忘れなどの自覚があり、不安感や依存心が強くなっている。 ・介護サービスだけでなく、本人の出来る力を維持しながら、現在の生活を続けるには地域や親戚等がどう関わればいいのか。	1.家族から近所へ見守り等をお願いする声掛け 2.家族内で元気なうちから将来について本人と話し合い共有する 3.ケアマネジャーと民生委員の連携 4.ケアマネジャーと支援している近所の方と情報共有することで安心し負担が軽減される 5.生活支援コーディネーターによる地域の活動支援
第8回	R2.12.22	唐丹	唐丹公民館 集会室	民生委員、町内会長、県立釜石病院退院支援看護師・医療社会事業士、唐丹駐在所所長、薬剤師、唐丹地区在介CM、あいぜんの里CM、生活支援Co、応援センター所長・保健師、包括スタッフほか 計16人	・妻を亡くし長く独居だったが、身体的に支援が必要な状態となり、介護保険サービスが思うように利用できず、一人暮らしが困難なため引っ越した。 ・高齢化率が高く、思うようにサービス利用ができない地区で生活していくためにはどのようなサービスが必要か、また周囲と支え合えるコミュニティづくりについて。	1.地域的に在宅サービスをなかなか選べない 2.若い時から地域との交流や日々の繋がりが重要 3.地域の中で見守り合い的な繋がりが重要 4.地域や様々な機関と見守り体制について検討が必要 5.見守り傾聴センターのような不穏な方への対応ができる所が必要